

DRUG

INFORMATION

2001 No. 15

岐阜大学医学部附属病院薬剤部
医薬品情報管理室（内線2834）

平成13年9月7日発行

目 次

1. 医薬品の採用・採用中止について1
ー平成 13 年 9 月 6 日の薬事委員会結果ー
2. 院内処方医薬品について4

※ Drug Information は医学部ホームページの下記アドレスにて提供しています。

<http://www1.med.gifu-u.ac.jp/drug-info/index.htm>

医薬品の採用・採用中止について

院内新規試用医薬品

医薬品名(成分名)	規格・単位	薬品分類	会社名
トレドミン錠(塩酸ミルナシプラン)	15mg／錠	セロニン・ノルアドレナリン再取込阻害剤	旭化成
フルスタン錠(ファレカルシトリオール)	0.3μg／錠	二次性副甲状腺機能亢進症治療剤	キッセイ
ドボネックス軟膏(カルシポトリオール)	[0.005%] 10g／本	尋常性乾癬治療剤	藤沢
フィブラストスプレー(トラフェルミン)	500μg／本	褥瘡・皮膚潰瘍治療剤	科研
アナペイン注(塩酸ロピバカイン)	[1%] 20mL／A	局所麻酔剤	アストラゼネカ
エボジン S 注(エポエチンベータ)	12,000I.U.／本	エリスロポエチン製剤	中外
オメプラール注用(オメプラゾールナトリウム)	20mg／V	プロトンポンプ阻害剤	アストラゼネカ
タゾシン静注用(タゾバクタム Na, ピペラシリン Na)	1.25g, 2.5g／V	βラクタマーゼ阻害剤配合抗生物質製剤	富山化学
タンボコール注(酢酸フレカイニド)	50mg／5mL／A	頻脈性不整脈治療剤	エーザイ
ラジカット注(エダラボン)	30mg／20mL／A	脳保護剤	三菱東京

院内採用医薬品

医薬品名(成分名)	規格・単位	薬品分類	会社名
アマリール錠(グリメピリド)	3mg／錠	経口血糖降下剤	アベンティスファーマ
ジルテック錠(塩酸セチリジン)	10mg／錠	アレルギー性疾患治療剤	住友
マイスリー錠(酒石酸ゾルピデム)	10mg／錠	入眠剤	藤沢
ボルヒール(人フィブリノゲン, 等)	5mL セット	生体組織接着剤	藤沢
スベニールディスポ(ヒアルロン酸ナトリウム)	2.5mL／本	関節機能改善剤	中外

製剤変更医薬品

医薬品名	規格・単位	薬品分類	会社名	変更年月
ディプリバン注 → ディプリバン注キット	200mg(20mL)／キット 500mg(50mL)／キット	全身麻酔・鎮静用剤	アストラゼネカ	H13.9

※在庫がなくなり次第, 変更とします。

院内採用中止医薬品

医薬品名(成分名)	規格・単位	薬品分類	会社名
アルダクトン A 細粒(スピロノラクトン)	100mg／g	カリウム保持性利尿剤	ファルマシア
エンピナース PD 錠(プロナーゼ)	18,000 単位／錠	消炎酵素剤	科研
ガストロピロール末	配合剤	健胃消化剤	日研化学
ストロカイン錠(オキセサゼイン)	5mg／錠	消化管粘膜局麻剤	エーザイ
ダイモックス末(アセタゾラミド)	原末	炭酸脱水酵素阻害剤	ワイズレダリー
チバセン錠(塩酸ベナゼプリル)	5mg／錠	ACE 阻害剤	ノバルティスファーマ
ノイチーム顆粒(塩化リゾチーム)	100mg／g	消炎酵素剤	エーザイ
幼児用 PL 顆粒(サリチルアミド, 等)	配合剤	総合感冒剤	塩野義
フェロ・グラデュメット錠(硫酸鉄)	105mg／錠	徐放型鉄剤	大日本
ムコソルバンシロップ(塩酸アンブロキシソール)	3mg／mL	気道潤滑去痰剤	帝人
メプチンシロップ(塩酸プロカテロール)	5mg／mL	気管支拡張剤	大塚
レフトーゼ錠(塩化リゾチーム)	30mg／錠	消炎酵素剤	日本新薬
アドフィード(フルルビプロフェン)	10×14cm／枚	鎮痛消炎貼付剤	科研
フェルデン軟膏(ピロキシカム)	[0.5%] 25g／本	経皮鎮痛・抗炎症剤	ファイザー
グリセオール(濃グリセリン, 果糖)	500mL／本	頭蓋内圧亢進治療剤	中外
トミポラン静注用(セフブペラゾンナトリウム)	1g／V	セファマイシン系抗生物質製剤	富山化学

※在庫がなくなり次第、処方中止とします。

販売中止医薬品

医薬品名(成分名)	規格・単位	薬品分類	会社名	中止年月
カラン錠(ビンポセチン)	5mg／錠	脳循環改善剤	武田	H13.8
セルタ錠(セリバスタチンナトリウム)	0.15mg／錠	HMG-CoA 還元酵素阻害剤	武田	H13.8
リストミン S カプセル(セミコハク酸ブトクタミド)	200mg／Cp	催眠・鎮静剤	ライオン	H13.11
パスパート皮内注射液	0.2mL／A	アレルギー疾患治療剤	マルホ	H13.7

院外処方医薬品（追加分）

医薬品名（成分名）	規格・単位	薬品分類	会社名
ジプレキサ錠（オランザピン）	5mg, 10mg／錠	抗精神病剤	イーライリリー
バイアスピリン錠（アスピリン）	100mg／錠	抗血小板剤	バイエル
ラクツロース末・P（ラクツロース）	6g／包	経口用二糖類製剤	日研化学
ヒルドイドローション（ヘパリン類似物質）	25g／本	血行促進・皮膚保湿剤	マルホ
フィブラストスプレー（トラフェルミン）	500mg／V	褥瘡・皮膚潰瘍治療剤	科研
ポステリザンF坐薬（大腸菌死菌浮遊液，等）	1.5g／個	痔疾治療剤	マルホ
モビラートゲル（ヘパリン類似物質，等）	25g, 50g／本	経皮複合消炎剤	マルホ
ラクティオンパップ（インドメタシン）	70mg／枚	鎮痛・消炎温感貼付剤	三笠
レクトス注腸軟膏（ジクロフェナクナトリウム）	25mg, 50mg／筒	鎮痛・解熱・抗炎症剤	藤沢

院内処方医薬品について

＊塩酸ミルナシプラン

Milnacipran Hydrochloride

【商】トレドミン Toledomin 旭化成

内用：錠剤（劇） 1錠中 15mg

【禁】本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者，MAO 阻害剤を投与中の患者，尿閉（前立腺疾患等）のある患者

【効】うつ病・うつ状態

【用】1日 50mg を初期用量とし，1日 100mg まで漸増し，食後，分割投与する。高齢者には1日 30mg を初期用量とし，1日 60mg まで漸増し，食後，分割投与する。

【副】悪性症候群，起立性低血圧，頻脈，動悸，血圧上昇，眠気，めまい，ふらつき，立ちくらみ，頭痛，振戦，視調節障害，躁転，焦躁感，知覚減退，不眠，頭がボーッとする，筋緊張亢進，アカシジア，勃起力減退，不安，被注察感，聴覚過敏，口部ジスキネジア，自生思考，発疹，瘙痒感，口渇，悪心・嘔吐，便秘，腹痛，味覚異常，舌異常，食欲不振，食欲亢進，口内炎，下痢，飲水量増加，AST・ALT・ γ -GTP 上昇，倦怠感，排尿障害，発汗，鼻閉，頻尿，熱感，発熱，悪寒，関節痛，耳鳴，浮腫，息苦しい，トリグリセライド上昇

【妊】有益のみ 【授】回避，やむを得ない場合は授乳回避

【小】未確立

＊ファレカルシトリオール Falecalcitriol

【商】フルスタン Fulstan キッセイ

内用：錠剤（劇） 1錠中 0.3 μ g

【効】維持透析下の二次性副甲状腺機能亢進症，副甲状腺機能低下症（腎不全におけるものを除く）における低カルシウム血症とそれに伴う諸症状（テタニー，痙攣，しびれ感，知覚異常等）の改善，クル病・骨軟化症（腎不全におけるものを除く）に伴う諸症状（骨病変，骨痛，筋力低下）の改善

【用】○維持透析下の二次性副甲状腺機能亢進症：1日 1回 0.3 μ g を投与する。○副甲状腺機能低下症における低カルシウム血症とそれに伴う諸症状の改善，クル病・骨軟化症に伴う諸症状

の改善：1日 1回 0.3～0.9 μ g を投与する。

【副】高カルシウム血症，腎結石，尿管結石，頭痛，眠気，いらいら感，パーキンソニズム，下痢，下血，嘔気，嘔吐，胃部不快感，食欲不振，口渇感，胸部違和感，徐脈，好酸球の増加，白血球数增多，単球増加，桿状核球増加，好中球増加・減少，リンパ球減少，高リン血症，尿酸上昇，総コレステロール上昇，トリグリセライド上昇，総蛋白低下，アルブミン低下，瘙痒感，蕁麻疹，皮疹，ALT・ γ -GTP・LDH 上昇，肝機能障害，AST 上昇，尿 pH 上昇，尿沈渣異常，BUN 上昇，尿蛋白異常，尿潜血，関節周囲又は皮下の石灰化，骨痛，関節痛，肩こり，女性型乳房，顔面潮紅

【妊】未確立，有益のみ 【授】未確立，回避，やむを得ない場合は授乳回避

【未・新・乳・幼】未確立 【小】慎重

【貯】遮光

＊カルシポトリオール Calcipotriol

【商】ドボネックス Dovonex 藤沢

外用：軟膏剤（劇） 0.005% (10g)

【禁】本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者

【効】尋常性乾癬

【用】1日 2回適量を患部に塗布する。

【副】接触性皮膚炎，瘙痒，紅斑・発赤，刺激感・ヒリヒリ感，落屑，皮疹，腫脹，毛囊炎，総ビリルビン・AST・ALT 上昇，白血球增多，白血球減少，リンパ球減少，好中球減少，単球增多，ヘモグロビン減少，血清 $1\alpha 25(\text{OH})_2\text{D}_3$ 低下，血清リン低下，血清 $1\alpha 25(\text{OH})_2\text{D}_3$ 上昇，尿中カルシウム上昇，尿中リン低下，尿中クレアチニン上昇，血清リン上昇

【妊】未確立，有益のみ 【授】回避，やむを得ない場合は授乳回避

【小】未確立

＊トラフェルミン Trafermin

【商】フィブラスト Fiblast 科研

外用：噴霧剤 1瓶中 500 μ g (1噴霧中 6 μ g)

【禁】投与部位に悪性腫瘍のある患者又はその

既往歴のある患者、本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【効】褥瘡、皮膚潰瘍（熱傷潰瘍、下腿潰瘍）

【用】添付溶解液 1mL あたり本剤 100μg を用時溶解し、潰瘍面を清拭後、本剤専用の噴霧器を用い、1 日 1 回、潰瘍の最大径が 6cm 以内の場合は、潰瘍面から約 5cm 離して 5 噴霧する。潰瘍の最大径が 6cm を超える場合は、薬剤が同一潰瘍面に 5 噴霧されるよう、潰瘍面から約 5cm 離して同様の操作を繰り返す。

【副】刺激感、疼痛、滲出液増多、発赤、痒感、発疹、接触皮膚炎、腫脹、ALT・AST 上昇

【妊】未確立、有益のみ

【小】未確立

【貯】冷所、溶解後 10℃以下冷暗所、2 週間以内に使用

＊塩酸ロピバカイン水和物

Ropivacaine Hydrochloride Hydrate

【商】アナペイン Anapeine アストラゼネカ

注射：液剤（劇） 1%：1 管（20mL）中 200mg

【禁】大量出血やショック状態の患者、注射部位又はその周辺に炎症のある患者、敗血症の患者、本剤の成分又はアミド型局所麻酔薬に対し過敏症の既往歴のある患者

【効】麻酔（硬膜外麻酔）

【用】1 回 200mg までを硬膜外腔に投与する。

【副】ショック、意識障害、振戦、痙攣、異常感覚、知覚・運動障害、血圧低下、徐脈、頻脈、心室性不整脈、洞性不整脈、SpO₂ 低下、呼吸困難、めまい、振戦、下肢知覚異常、頭痛、昏迷、運動障害、言語障害、口唇しびれ感、全身しびれ感、譫妄、攣縮、異常感覚、不安、嘔気、嘔吐、排尿困難、尿閉、発熱、耳鳴、戦慄、低体温、悪寒、顔面潮紅、硬結性紅斑、結膜充血、ホルネル症候群

【妊】未確立、有益のみ、妊娠後期：慎重

【小】未確立

＊エポエチンベータ Epoetin Beta

【商】エポジン S Epogin S 中外

注射：液剤（劇） 1 筒中 12,000 国際単位

【禁】本剤又は他のエリスロポエチン製剤に過敏症の患者

【効】CAPD 施行中の腎性貧血、透析導入前の腎

性貧血

【用】〔皮下注〕成人には、投与初期は、1 回 6,000 国際単位を週 1 回投与する。貧血改善効果が得られた後は、維持量として、1 回 6,000～12,000 国際単位を 2 週に 1 回投与する。小児には、投与初期は、1 回 50～100 国際単位/kg を週 1 回投与する。貧血改善効果が得られた後は、維持量として、1 回 100～200 国際単位/kg を 2 週に 1 回投与する。貧血改善効果の目標値はヘモグロビン濃度で 10g/dL（ヘマトクリット値で 30%）前後とする。

【副】ショック、高血圧性脳症、脳出血、脳梗塞、血圧上昇、動悸、皮疹、ざ瘡、痒感、AST・ALT・LDH・Al-P・総ビリルビン上昇、腹痛、嘔吐、下痢、嘔気、食欲不振、不眠、めまい、体熱感・ほてり感、発汗、発熱、関節痛、筋肉痛、頭痛・頭重感、全身倦怠感、好酸球増多、白血球増多、BUN・クレアチニン上昇、眼底出血、口内苦味感、鼻出血、血清カリウム上昇

【妊】未確立、回避、やむを得ない場合は有益のみ

【未・新・乳】未確立

【貯】10℃以下、遮光

＊オメプラゾールナトリウム

Omeprazole Sodium

【商】オメプラール Omepral アストラゼネカ

注射：1 瓶中 20mg

【禁】本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者

【効】○経口投与不可能な下記の疾患：出血を伴う胃潰瘍、十二指腸潰瘍、急性ストレス潰瘍及び急性胃粘膜病変 ○経口投与不可能な Zollinger-Ellison 症候群

【用】1 回 20mg を、生理食塩液又は 5%ブドウ糖注射液に混合して 1 日 2 回点滴静注する、あるいは生理食塩液又は 5%ブドウ糖注射液 20mL に溶解して 1 日 2 回緩徐に静注する。

【副】ショック、アナフィラキシー様症状、血管浮腫、気管支痙攣、無顆粒球症、汎血球減少症、溶血性貧血、急性肝不全、黄疸、Lyell 症候群、Stevens-Johnson 症候群、視力障害、間質性腎炎、低ナトリウム血症、間質性肺炎、横紋筋融解症、発疹、蕁麻疹、痒感、多形紅斑、

光線過敏症，下痢・軟便，便秘，悪心，嘔吐，鼓腸放屁，腹部膨満感，カンジダ症，口渇，腹痛，口内炎，AST・ALT・Al-P・ γ -GTP 上昇，LDH 上昇，白血球減少，血小板減少，貧血，頭痛，眠気，しびれ感，めまい，振戦，可逆性の錯乱状態，傾眠，不眠，異常感覚，うつ状態，血管痛，かすみ目，発熱，浮腫，女性化乳房，脱毛，倦怠感，関節痛，BUN・クレアチニン・尿酸・トリグリセライド・血清カリウム・総コレステロール上昇，頻尿，味覚異常，心悸亢進，月経異常，筋肉痛，発汗

【妊】有益のみ 【授】回避，やむを得ない場合は授乳回避

【小】未確立

【貯】遮光

【商】タゾシン Tazocin 富山化学

注射：1 瓶（1.25g，2.5g）中タゾバクタムナトリウム 0.25g，0.5g，ピペラシリンナトリウム 1g，2g

【禁】本剤の成分又はペニシリン系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者，伝染性単核球症の患者

【効】敗血症，腎盂腎炎，複雑性膀胱炎

【用】成人には 1 日 2.5～5g を 2 回に分けて静注又は点滴静注する。小児には 1 日 60～150mg/kg を 3～4 回に分けて静注又は点滴静注する。1 日投与量の上限は成人における 1 日 5g を超えないものとする。

【副】ショック，アナフィラキシー様症状，Lyell 症候群，Stevens-Johnson 症候群，急性腎不全，間質性腎炎，汎血球減少症，無顆粒球症，血小板減少症，溶血性貧血，偽膜性大腸炎，間質性肺炎，PIE 症候群，横紋筋融解症，肝機能障害，浮腫，発疹，発熱，発赤，痒疹，蕁麻疹，顆粒球減少，血小板減少，貧血，好酸球增多，ALT・ γ -GTP 上昇，AST・LDH・Al-P・総ビリルビン上昇，下痢・軟便，腹痛，悪心・嘔吐，食欲不振，胸やけ，腹部膨満感，下血，痙攣，カンジダ症，口内炎，ビタミン K 欠乏症状，ビタミン B 群欠乏症状，頭痛，動悸，発汗，意識レベル低下，胸内苦悶感，胸部痛，背部異常感

【妊】未確立，有益のみ 【授】授乳中止

【未・新】未確立 【乳・幼】慎重

*酢酸フレカイニド Flecainide Acetate

【商】タンボコール Tambocor エーザイ

注射：液剤（劇）1 管（5mL）中 50mg

【禁】うっ血性心不全のある患者，高度の房室ブロック・高度の洞房ブロックのある患者，心筋梗塞後の無症候性心室性期外収縮あるいは非持続型心室頻拍のある患者，妊婦又は妊娠している可能性のある婦人，リトナビルを投与中の患者

【効】緊急治療を要する下記不整脈：頻脈性不整脈（症候性の発作性心房細動・粗動，発作性上室性頻拍，心室頻拍，及び医師が生命に関わると判定した重症の心室性期外収縮）

【用】1 回 1.0～2.0mg/kg を必要に応じてブドウ糖液で希釈し，血圧及び心電図監視下 10 分間かけて静注する。総投与量は 1 回 150mg までとする。

【副】心室頻拍（Torsades de pointes を含む），心室細動，一過性心停止，Adams-Stokes 発作，血圧低下，洞停止，胸部不快・圧迫感，QRS 幅増大，PQ 延長，房室ブロック，徐脈，動悸，頭がボーッとする，頭重，めまい，頭部不快感，手足のしびれ，眠気，口渇，嘔気，視力異常，AST・ALT 上昇，BUN 上昇，舌・口唇のしびれ，体熱感，顔面熱感

【妊】不可 【授】回避，やむを得ない場合は授乳回避

【小】未確立

*エダラボン Edaravone

【商】ラジカット Radicut 三菱東京

注射：液剤 1 管（20mL）中 30mg

【禁】本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【効】脳梗塞急性期に伴う神経症候・日常生活動作障害・機能障害の改善

【用】1 回 30mg を適当量の生理食塩液等で用時希釈し，30 分かけて 1 日朝夕 2 回の点滴静注を行う。発症後 24 時間以内に投与を開始し，投与期間は 14 日以内とする。

【副】発疹，発赤，腫脹，膨疹，痒疹感，赤血球減少，白血球增多，白血球減少，ヘマトクリット値減少，ヘモグロビン減少，血小板増加，血小板減少，注射部発疹，注射部発赤腫脹，AST・ALT・LDH・Al-P・ γ -GTP 上昇，総ビリル

ビン値上昇，ウロビリノーゲン陽性，ビリルビン尿，BUN 上昇，尿酸上昇・低下，蛋白尿，血尿，嘔気，発熱，熱感，血圧上昇，コレステロール上昇・低下，トリグリセライド上昇，総蛋白減少，CK 上昇・低下，血清カリウム低下，血清カルシウム低下

【妊】未確立，回避 【授】授乳回避

【小】未確立

＊プロポフォール Propofol

【商】ディプリバン Diprivan アストラゼネカ
注射：液剤（劇）

1 筒（20mL，50mL）中 200mg，500mg

【禁】本剤又は本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者，妊産婦

【効】全身麻酔の導入及び維持，集中治療における人工呼吸中の鎮静

【用】○全身麻酔の導入及び維持：（ディプリフューザーTCI 機能を用いない場合）〔導入〕本剤を 0.5mg/kg/10 秒の速度で，患者の全身状態を観察しながら，就眠が得られるまで静注する。ASAⅢ及びⅣの患者には，より緩徐に投与する。本剤 2.0～2.5mg/kg で就眠が得られる。高齢者においては，より少量で就眠が得られる場合がある。〔維持〕酸素もしくは酸素・亜酸化窒素混合ガスと併用し，本剤を静注する。適切な麻酔深度が得られるよう全身状態を観察しながら，投与速度を調節する。本剤 4～10mg/kg/時の投与速度で適切な麻酔深度が得られる。鎮痛剤（麻薬性鎮痛剤，局所麻酔剤等）を併用すること。局所麻酔剤併用時には通常より低用量で適切な麻酔深度が得られる。（ディプリフューザーTCI 機能を用いる場合）〔導入〕目標血中濃度 3.0μg/mL で静注を開始し，投与開始 3 分後に就眠が得られない場合には 1 分毎に 1.0～2.0μg/mL ずつ目標血中濃度を上げる。通常，目標血中濃度 3.0～6.0μg/mL，投与開始後 1～3 分で就眠が得られる。高齢者，ASAⅢ及びⅣの患者には，より低い目標濃度で投与を開始すること。〔維持〕酸素もしくは酸素・亜酸化窒素混合ガスと併用し，本剤を静注する。適切な麻酔深度が得られるよう全身状態を観察しながら，目標血中濃度を調節する。通常，目標血中濃度 2.0～5.0μg/mL で適切な麻酔深度が得られる。鎮痛剤（麻薬性鎮痛剤，局所麻酔剤等）を併用するこ

と。○集中治療における人工呼吸中の鎮静：本剤を 0.3mg/kg/時の投与速度で，持続静注を開始し，適切な鎮静深度が得られるよう患者の全身状態を観察しながら，投与速度を調節する。通常，0.3～3.0mg/kg/時の投与速度で適切な鎮静深度が得られる。必要に応じて鎮痛剤を併用すること。

【副】低血圧，アナフィラキシー症状，気管支痙攣，舌根沈下，一過性無呼吸，てんかん様体動，重篤な徐脈，不全収縮，心室頻拍，心室性期外収縮，左脚ブロック，肺水腫，覚醒遅延，横紋筋融解症，悪性高熱類似症状，徐脈，ST 低下，頭痛，振戦，吃逆，咳嗽，悪心，口腔内分泌物増加，嘔吐，肺炎，発赤，紅斑，AST・ALT・Al-P・LDH・γ-GTP・ビリルビン上昇，腎機能障害，変色尿，多幸症，性欲抑制不能，譫妄，白血球増加，低蛋白血症，低アルブミン血症，注射時疼痛，注射部位の静脈炎・血栓症・しびれ感，術後発熱，戦慄

【妊】不可 【授】回避，やむを得ない場合は授乳回避

【未・新・乳・幼・小】未確立 ディプリフューザーTCI 機能を用いる投与方法：不可〔集中治療における人工呼吸中の鎮静〕回避

【貯】25℃以下